

南薩摩の十五夜行事

【所在地】枕崎市，南さつま市坊津町，知覧町（枕崎市十五夜行事保存会・知覧町十五夜行事保存会・坊津町十五夜行事保存会）

【種別】国指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和 56 年 1 月 21 日



旧暦八月十五夜の月を祭る行事は，わが国に広く行われているが，薩摩半島南部は，綱引きなどの特色ある行事が，男の子ども組を中心に集落をあげて盛大に行われる点で特に注目される。

十五夜の大綱は，長さ 100m 余にわたることが珍しくない。綱は茅で作られるが，その材料集めを茅引きといい，子ども組が何日もかかって山から刈り集めるもので，刈った茅の束を頭からすっぽりかぶって体を覆い，列を組んで下山する姿に特色がある，綱をなうのが大がかりで，やぐらを組み，集落が総出で行うが，特に若者が加勢して一日がかりで行われる壮観無比の行事である。夜はこの聖なる大綱を子ども組が裸で綱引きをする。

また，子ども組による十五夜踊りが坊津町や知覧町に伝承されている。特に知覧町のそれは，「ソラヨイ」といい，子ども組が裸の上に，わら製のカサ・ミノ・ハカマをつけて踊る。その中でも同町中福良では，出傘というワラコヅミ状の大きな傘を立て，そのまわりを四股を踏みながら踊る。最後に傘を引き倒すと，中から年長の子どもが現れる。いずれもきわめて特色ある行事である。

月を祭る地域的特色が濃厚な民俗行事で，男の子ども組が中心になって行われる点も注目される。